

ておめでとうございます 願いいたします



別海町長
曾 根 興 三

明けましておめでとうございます。
町民の皆さまには、平成31年の新春を心
健やかに迎えのことと心からお慶び申し
上げます。

また、日頃より町政運営の推進に對し
して、温かいご支援とご協力を賜り、厚く
お礼申し上げます。

私にとりまして、町長就任後3回目の新
春を迎えました。就任以来、町民の皆さま
のご支援の下、常に皆さまと共に考え行動
していくことを基本とし、町民生活の安定
はもとより、住民に優しい地域社会の実現
を目指して、町民一人一人が自立して活躍
することができるよう、行財政の課題解決
に取り組んでまいりました。

本年は、平成最後の年であり、新元号始
まりの年でもあります。この節目となる新
年を迎え、皆さまと共にまちづくりの全力
で取り組むため、決意を新たにしております。

昨年を顧みますと、6月から7月につ
ての長雨による牧草の収穫作業の大幅な遅
れや、台風25号の直撃によるパイロットマ
ランの中止など、自然がもたらす影響に
左右された一年となりました。

また、9月に発生した「最大震度7」の
北海道胆振東部地震による、北海道全域で
起きた大規模停電は、本町においても、住
民生活や産業・経済活動に多くの被害をも
たらしました。

これらの経験を教訓として受け止め、今
後の災害対応に適切に取り組んでいきたい
と考えています。

一方、明るいニュースとしまして、別海
町出身のスピードスケート選手の郷里里砂
さんが、2月に開催された平昌オリンピック
に、日本代表選手として出場し、女子ス
ピードスケート500mにおいて見事8位

入賞を果たしました。懸命に滑走する姿は、
町民に夢と希望と感動を与えてくれたこと
は言うまでもありません。

この輝かしい活躍に對して、これまでの
功績と栄誉をたたえ、別海町から「町民栄
誉賞」を贈呈いたしました。

また、オホーツクおよび根室管内7町で
取り組みを進めてきた「知床ご当地ナン
バー」の導入が決定しました。知床ナン
バーは、これからの観光と地域経済の活性
化に大きな役目を果たしてくれるものと期
待しています。

国内の状況に目を向けますと、昨年7月
には北方領土の元島民の方々が、航空機を
使った空路参参により、国後、択捉両島を
訪問しました。

一昨年に続き2回目の空路参参となりま
したが、今後も継続を目指すなど北方領土
での日口協力の成果を積み重ね、領土交渉
の進展につながることを期待しています。

また、北方四島における共同経済活動に
より両国の信頼関係の構築を通じ、領土問
題の解決に努める国の取り組みを支援する
とともに、隣接地域である本町としまして
も、将来の平和条約締結に向けた取り組み
として積極的に関与してまいります。

さて、新元号初年となる2019年は、
本町において、第7次総合計画が開始とな
る節目の年になります。

本計画の策定に当たり、町民の皆さまの
意見を計画に反映するために行いましたア
ンケート調査や、各種団体懇談会、地域懇
談会において、たくさんの方から貴重なご
意見や提言をいただきました。

皆さまからいただいたご意見を基に、私
の公約でもあります「子育て支援」「老後
の安心」「経済の発展」などを具現化して
まいります。

喫緊の課題であります農業の新たな担い
手の確保および後継者対策や、水産資源の
維持増大を図る管理型漁業の推進、地域経
済活性化に向けた地域の特色を生かした産
業の創出や、新しい観光メニューの確立に
よる体験型観光の推進など、関係機関と連
携を図り、豊かで活力ある産業づくりを進
めてまいります。

また、少子超高齢社会の進行や核家族化
への対策として、保護者が安心して子育て
ができる多面的な子育て支援施策の推進と、
高齢者の方々が住み慣れた地域で、いきい
きと安心して暮らし続けることができるよ
う、介護予防から介護サービス、医療と介
護の連携を総合的に推進してまいります。

「矢口別演習場周辺まちづくり構想」の
主要施策であります生涯学習センター建設
のための実施設計が完了し、2021年度
の供用開始を目標に本年から建設工事に着
手いたします。別海町らしい魅力ある施設
になるよう準備を進めてまいります。

「人がつながり 未来につながる 海と大
地に夢があふれるまち」いつも心に広がる
ふるさと「べっかい」を別海町の目指す
べき将来像として、住んでみたい、住み続
けたいと思える別海町を、町民の皆さまと
行政が共につくるため、皆さまと心をつ
にし、職員ともども全力で諸課題の解決に
向けて取り組む所存であります。どうぞ、
より一層のご支援とご協力を賜りますよう
お願い申し上げます。

結びになりますが、新たな一年が、町民
の皆さまにとりまして、希望に満ち、健康
で笑顔あふれる年となりますよう心からお
祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせて
いただきます。



別海町議会議長

松原政勝

町民の皆さま あけまして 本年もよろしくお

明けましておめでとございます。町民の皆さまにはご家族おそろいで新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は別海町議会に温かいご理解とご支援を賜りましたこと、議会を代表しまして厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、財務省の決裁文書の改ざん発覚や、「パワハラ」を象徴とする国内スポーツ界での相次ぐ不祥事など、組織や団体のガバナンスを問われる事態の続出がさまざまな議論を呼び、多くの分野でこれまで日本人が培ってきた信頼が根底から覆されるという、社会を大きく揺るがす一年であったと感じているところであります。

そんな中、2月に開催された平昌オリンピックでは、本町出身の郷里里砂選手が女子スピードスケート500mで見事8位入賞、1000mでも13位の好成績を収められ、この明るいニュースは、多くの町民にとりわけ未来を担う子どもたちに、この上ない素晴らしい夢と希望を与えてくださいました。いま一度その栄光をたたえさせていただきます。

一方、自然災害に目を向けますと、6月末から7月にかけての西日本豪雨では、多くの地点で降水量が観測史上1位となるなど、広範囲で長時間の記録的な大雨は、豪雨災害では平成最悪の被害をもたらしました。

また、9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震では、厚真町で震度7、安平町で震度6強を観測し、全ての発電所が停止北海道全域が停電するという緊急事態に見

舞われました。

本町においても、停電の全面復旧には約43時間を要し、日常生活や産業経済活動に大きな影響があったことから、あらためてあらゆる災害を想定した対応や対策の必要性を痛感したところであります。

さて、我が国の経済は、「三本の矢」、「三本の矢」等を掲げた6年にわたる安倍政権の取り組みの下、「デフレではない」状況にまでこぎ着けたと言われる一方で、潜在成長力の伸び悩み、将来不安からの消費の伸び悩み、中間層の活力の低下といった深刻な課題については、未だ解決を実感できず、閉塞感を脱却できない状況にあります。

1989年を元年とする「平成」は、30年を経て本年4月末で閉幕を迎えますが、バブル景気で幕を開けた平成は、その後「失われた20年」とも呼ばれる経済の停滞を余儀なくされました。

地方においては、その影響を払拭できないことに加え、国難とも呼ばれる人口減少に歯止めがかからない中、医療や介護、子育て分野における責任が拡大し、社会保障、社会資本整備など住民に身近な行政サービスに関連する経費は、年々膨らむ傾向にあります。

また、頻発する災害への備えや人口減少社会における長期的な視点を踏まえた取り組みなど、厳しい財政状況の中で必要な住民サービスを安定的に提供していくため、新たな発想での創造的な施策が求められています。

本町においても、あらゆる諸課題が基幹産業や財政運営に大きな影響を及ぼすこと

は明らかであり、産業振興や町民福祉の向上を図るために、増大する行政需要に対して今後どのように予算を編成していくか、極めて難しい状況に直面していると言えます。

厳しい現状に立ち向かうため、本町では現在、新しい長期計画となる「第7次別海町総合計画」の策定に取り組んでいます。議会としても住みよいまちづくりを実現するため、議会の果たすべき役割と責任を自覚し、皆さまの声を町政に反映し、10年後、さらにその先も別海町が発展を続け、住んでよかったと実感できるまちづくりに議員一同全力で取り組みを進めていく所存であります。

町民の皆さまに開かれた分かりやすい議会を目指し、昨年11月に町内3会場で実施した議会報告会でも、町政や議会に対する思いを一人一人から直接聞くことができました。寄せられましたご意見等は、十分に検討して議会運営に反映させてまいります。加えて、議会の活力ある行動を目指し、今期策定した「別海町議会活性化計画」を点検と評価の上しっかりと総括し、町民の皆さまのニーズに寄り添い、時代に即したさらなる取り組みを進めてまいります。

別海町議会として、住民の皆さまと共に歩む議会を目指し、議員全員で力を合わせ取り組んでまいりますので、どうか本年も一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

町民の皆さまにとりまして、本年がより輝かしい実りのある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のあいさついたします。